

## 学校教育目標

### 自立する生徒

～イメージ豊かに創造しよう～

- ・意欲を持って学習する人
- ・正義を重んじる人
- ・共に生きる人

# 城山中だより

No. 19

令和7年9月2日

綾瀬市立城山中学校

校長 熊本 丈力

## 2学期始業式 校長 挨拶より

# 命・平和の尊さ・周りの仲間への思いやり

～広島 平和記念式典「平和のスピーチ」から考える～



今年には日本の戦争が終わって80年、節目の年でした。終戦記念日の8月15日を中心に、例年以上にテレビや新聞など戦争や平和に関する特集やドラマなどが放映されていたこともあり、関心をもった人もいるでしょう。8月6日には原爆が投下された広島で平和記念式典が行われ、地元の小学6年生2人が「平和への誓い」を話しています。一部、最初の部分を引用して読んでみます。

いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありますか。昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。誰なのか分からないくらい皮膚がただれた人々。涙とともに止まらない、絶望の声。一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。被爆から80年が経つ今、本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。多様性を認め、相手のことを理解しようとする。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはず。周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

このスピーチ、皆さんとほぼ同じ世代の声として、ぜひ考えてみましょう。命の大切さ、平和の尊さ、当たり前の日常生活を。広島の人々は一発の爆弾で突然、日常生活が奪われました。皆さんも含め私たち1人ひとりは一つしかない、かけがえのない命を持って生きています。授かった命を大切に生きる、命を粗末にしないことはもちろんのこと、自分の良さを発揮して自分らしく生きていくことが大切です。ぜひ自分の命を大切に生きていきましょう。

そして、もう少し考えてもらいたいこととして、事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつ。多様性を認め、相手のことを理解する。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなる。周りの人たちのために、ほんの少しずつでも行動することが、世界の平和につながる。このことは私たちの日常生活においても当てはまる内容です。相手に寄り添い、相手が何を思っているかを察する想像力と共感する力を身につけること。相手の気持ちを汲み取り行動できる人は、相手の命を大切にできる人です。自分の命はもちろん、相手の命、気持ちを思いやる。親しい人にはもちろん、これからはそうでない人にも勇気をもって、行動してみてください。きっと皆さん自身も充実した幸せな気持ちになれますし、学校全体の雰囲気も平和で明るくなるでしょう。

2学期は合唱祭、体育祭と大きな学校行事が予定されています。ぜひ、終業式の時に、自分の成長を言葉で語れるよう、毎日の授業や生活を意識して取り組んでほしいと思います。城山中の生徒の皆さんが、1学期以上にそれぞれ成長することを願って、始業式の挨拶とします。